



Multilingual Expert Program

大阪大学 マルチリンガル・エキスパート 養成プログラム

平成29年度学部プログラム

はじめに

昨今、いわゆるエマージング・エコノミーの台頭とともに、複数の高度な外国語運用能力と高い専門性を身につけ、国際舞台で活躍できる人材の養成が急務となっています。国際公用語となっている英語はもちろん、これに加えて、中国語、スペイン語、ポルトガル（ブラジル）語、ロシア語、アラビア語、ベトナム語、インドネシア語等を縦横に運用できるとともに、法律、経済、人文社会科学等の専門知識を備えた人材が求められています。大阪大学は、外国語学部を擁する唯一の国立総合大学として、大阪外国語大学との統合のメリットを最大限に引き出し、他の大学では養成できないこうした貴重な人材を育成・輩出し、我が国の発展と国際社会の相互理解に貢献していきたいと考えています。

そこで、本学における新たな学際融合教育（学部・研究科等の枠にとらわれない教育）プログラムとして、本学の学生が多様（マルチ）な言語教育科目と各学部・研究科における専門教育科目を並行して履修することができる「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を開設することにいたしました。

大阪大学は、多数の学部・研究科・研究所・センター等からなる総合大学です。マルチリンガル・エキスパート養成プログラムにおいて提供される各プログラムは、それぞれの専門分野を組み合わせることで編成されており、また、学部の課程と大学院の博士前期（修士）課程を通じたプログラムとして開設するものです。この教育環境を最大限利用してみませんか。

このプログラムを履修することで、今までより大きな視野で物事を考えることができるようになり、所属学部・研究科においてもプラスに作用すると確信しています。

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム (学部プログラム・大学院プログラム) の概略

プログラム	マルチリンガル・エキスパート養成プログラム (学部プログラム・大学院プログラム)	
	学部プログラム [プログラム履修]	大学院プログラム【平成30年度開講予定】 (大学院副専攻プログラム) [プログラム履修]
目的	複数の学部及び複数の研究科の教育プログラムを修め、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成する。	
対象	文系学部の2年次以上の正規学生	原則、学部プログラムを修了した文系研究科の正規学生
概要	<p>①外国語学部・言語文化研究科の学生が、文系各学部・研究科が開設する専門教育レベルの人文科学、人間科学、法学・政治学、経済学・経営学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。</p> <p>②文系学部・研究科の学生が、外国語学部・言語文化研究科が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。</p>	
提供数	6プログラム	(平成30年度から、7プログラムを開講予定)
募集人員 (平成29年度)	各プログラム：若干名	平成30年度から募集予定
プログラム開始申請	必要 (プログラム履修申請と科目履修申請/科目履修登録)	必要 (プログラム申請と科目履修登録)
要件単位	あり (24単位以上) *24単位以上の一貫した専門性をもつ内容から構成されており、所属する学部の卒業要件単位と12単位までは重なっていてもかまわない。(詳細は9頁参照)	あり (14単位以上) *14単位以上の一貫した専門性をもつ内容から構成されており、所属する研究科の修了要件単位と7単位までは重なっていてもかまわない。(詳細は11頁参照)
修了認定証	発行あり (総長とプログラム実施部局長との連名で発行)	発行あり (総長とプログラム実施部局長との連名で発行)
学部の卒業・研究科の修了とプログラムとの関係		
	マルチリンガル・エキスパート養成プログラム修了	

目 次

はじめに

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム）の概略

1	プログラムの概要	1
	（1）「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム （学部プログラム・大学院プログラム）」とは	
	（2）プログラムの区分	
	（3）平成29年度開設のプログラムについて	
	（4）プログラムの履修開始から修了までの流れの例	
2	募集対象者・履修条件等について	5
	（1）募集対象者	
	（2）履修条件	
	（3）費用	
3	各プログラムのカリキュラム内容について	6
	（1）プログラムのカリキュラムについて	
	（2）プログラムの修了要件の満たし方について	
	（3）プログラムの授業科目の開講期間について	
4	プログラムの履修申請等に関する手続について	7
	（1）プログラムの履修開始時の手続について	
	（2）プログラム及びプログラム科目に関わる通知について	
	（3）プログラムの修了について	
	（4）プログラムの内容に関する問い合わせ先	
5	補足事項	9
	（1）単位修得方法の注意点	
	（2）プログラム履修申請前の修得単位の扱いについて	
6	Q & A	12
	平成29年度 各プログラム（学部プログラム）紹介	18
	大学院プログラムの概要	37
	平成30年度開設予定の大学院プログラム一覧	
	関係資料	40
	○大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラムに関する申合せ	
	○大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラムに関する申合せ	

1 プログラムの概要

「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム）」とはどのようなものか解説します。

(1) 「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム）」とは

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム、以下ではまとめて「本プログラム」と表記）は、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的として開設するもので、

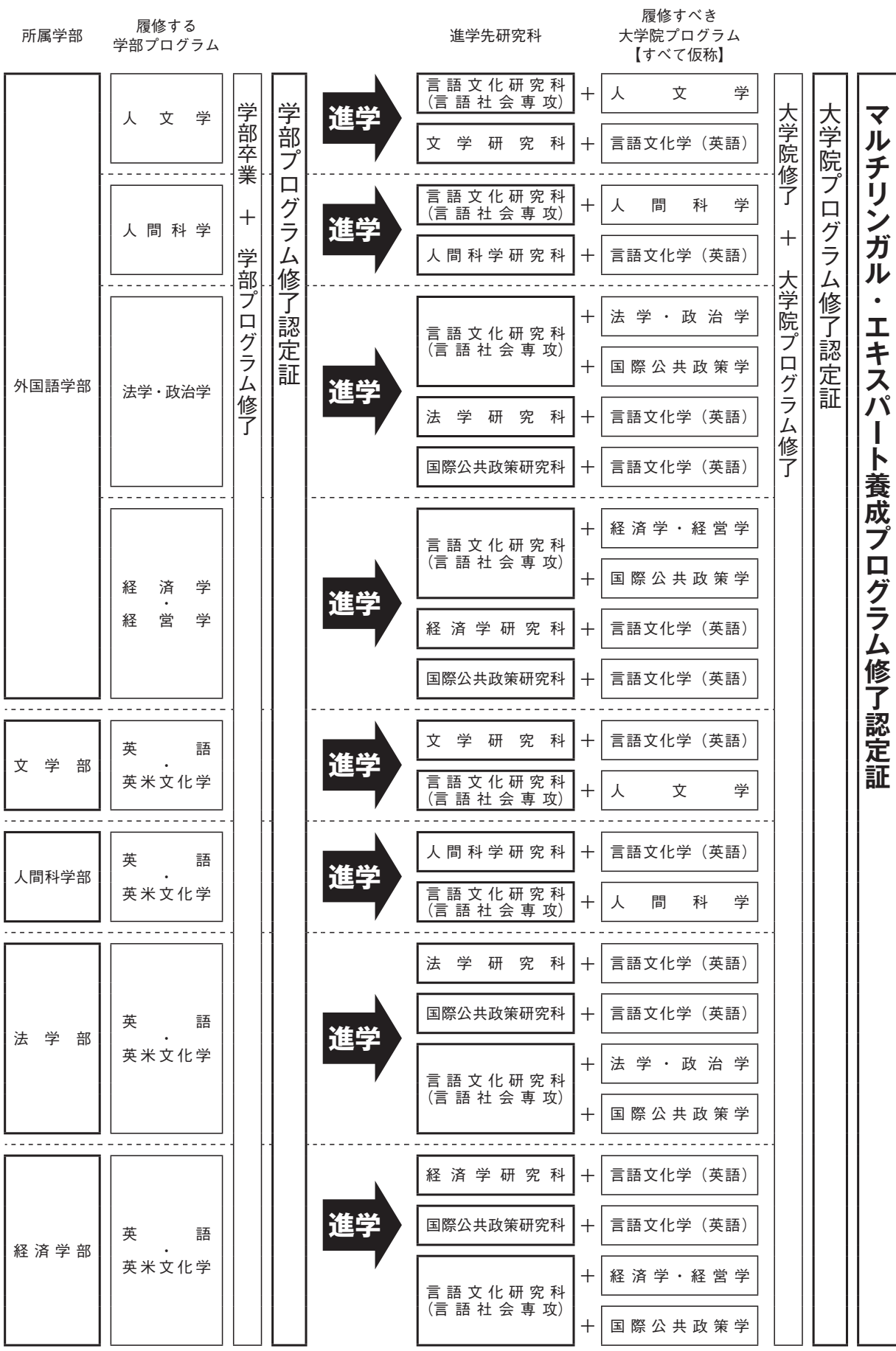
- ① 世界各国・地域の言語・文化等を専攻している外国語学部・言語文化研究科（言語社会専攻）の学生が、文系各学部・研究科が開設する専門教育レベルの人文学、人間科学、法学・政治学、経済学・経営学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム
- ② 人文学、人間科学、法学・政治学、経済学・経営学等を専攻している文系学部・研究科の学生が、外国語学部・言語文化研究科（言語社会専攻）が開設する専門教育レベルの語学・文化等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム

となっています。

本プログラムは、学部のプログラムと大学院のプログラムからなっています。学部のプログラムは、本学の文学部、人間科学部、外国語学部、法学部、経済学部の学生を対象とした学部横断型のプログラムで、「学部プログラム」を修了すれば、修了認定証が交付されます。さらに、文学研究科、人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、言語文化研究科（言語社会専攻）、国際公共政策研究科に進学し、「大学院プログラム」を修了すると本プログラムを完全に修了したことになります。

本プログラムを修了するための具体的なプログラムの履修方法（組合せ例）は、次ページのとおりです。

平成29年度開設のプログラムに基づいた履修パターン例 【図1】



(2) プログラムの区分

プログラムは、以下のように区別されています。

	学部プログラム	大学院プログラム (予定)
概要	<p>①外国語学部の学生が、文系各学部が開設する専門教育レベルの人文科学、人間科学、法学・政治学、経済学・経営学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。 プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。</p> <p>②文系学部の学生が、外国語学部が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。</p>	<p>①言語文化研究科 (言語社会専攻) の学生が、文系各研究科が開設する専門教育レベルの人文科学、人間科学、法学・政治学、経済学・経営学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。 プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。</p> <p>②文系研究科の学生が、言語文化研究科 (言語社会専攻) が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができるプログラム。</p>
募集対象者	文系学部の2年次以上の正規学生	原則、学部プログラムを修了した文系研究科の正規学生
修了要件	24単位以上 ^{*1}	14単位以上 ^{*1}
提供プログラム数	①6プログラム	7プログラム (平成30年度から開講予定)

(※1) あくまで制度上の最低単位です。実際は、プログラムごとに設定が異なり、この条件より要件が多く設定されていたり、必修科目があったりする場合があります。必ず各プログラムの紹介を参照してください。

(3) 平成29年度開設のプログラムについて

①として

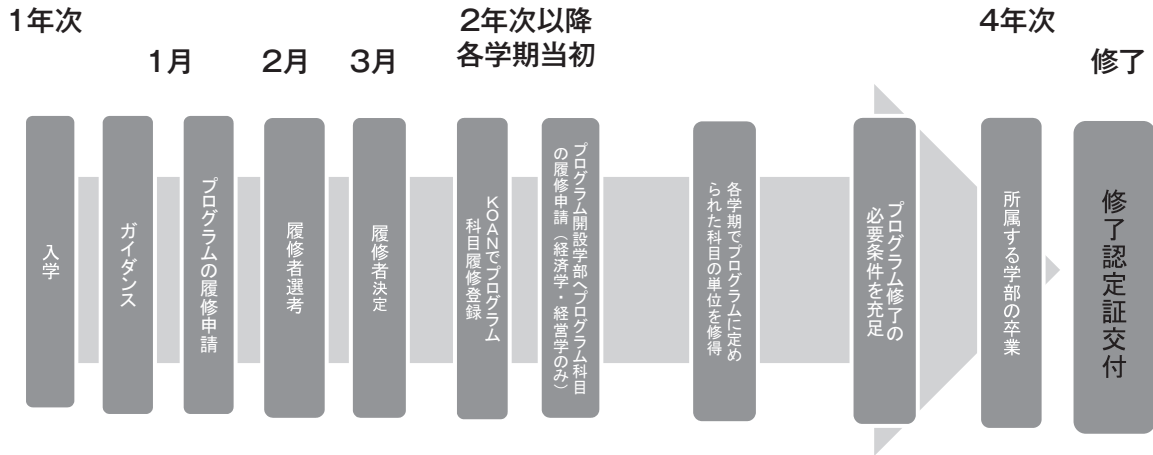
開設学部	プログラム	募集対象者
文学部	人文学 (グローバル・アジア・スタディーズ) (グローバル・ユーロ・スタディーズ)	平成29年度に外国語学部外国語学科の2、3年次に在学する正規学生
人間科学部	人間科学 (共生の生態)	平成29年度に外国語学部外国語学科の2年次に在学する正規学生
法学部	法学・政治学	
経済学部	経済学・経営学	

②として (新規開設)

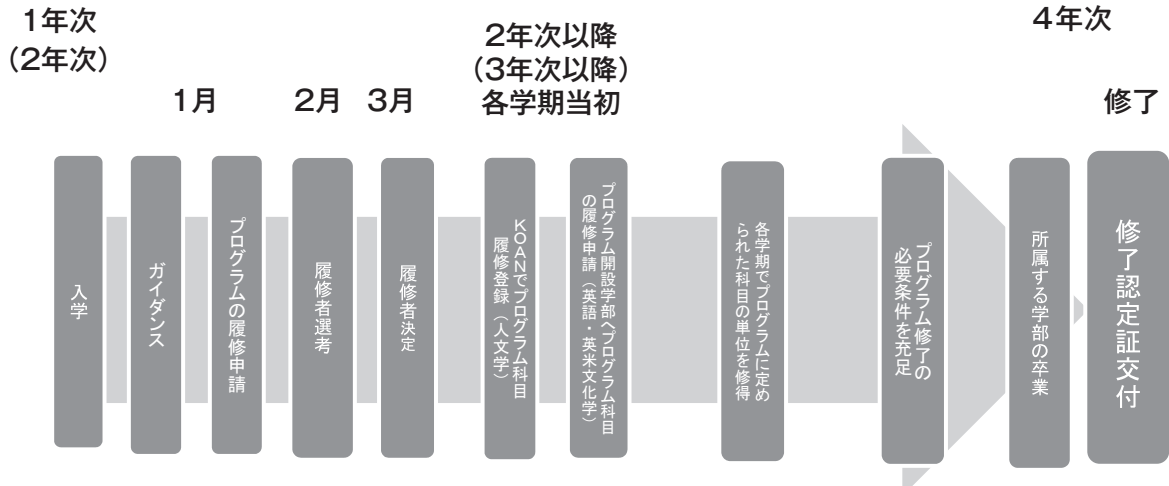
開設学部	プログラム	募集対象者
外国語学部	英語・英米文化学	平成29年度に文学部、人間科学部、法学部、経済学部の2、3年次に在学する正規学生

(4) プログラムの履修開始から修了までの流れの例【図2】

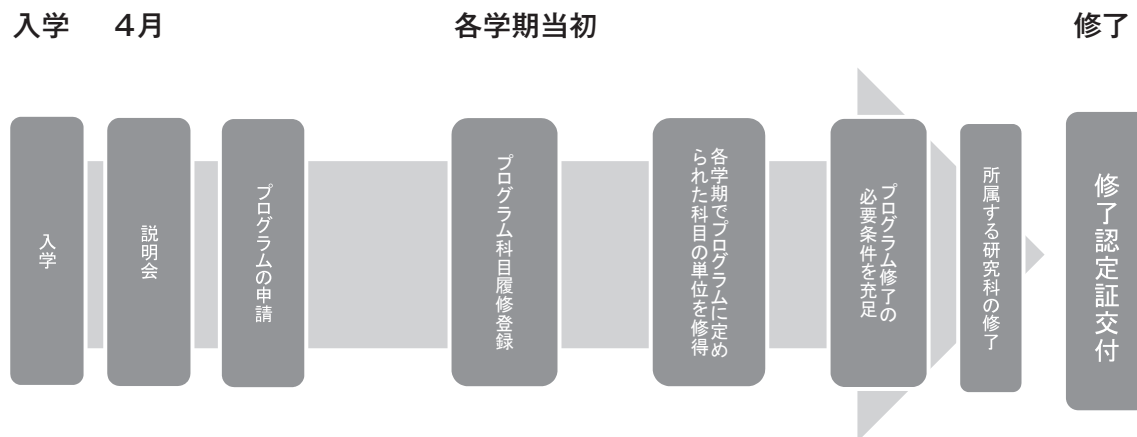
① 学部プログラム (人間科学、法学・政治学、経営学・経済学)



② 学部プログラム (人文学、英語・英米文化学)



③ 大学院プログラム (例)



2 募集対象者・履修条件等について

プログラムを履修することができる者、条件の概要を解説します。

(1) 募集対象者

◆学部プログラム

文 学 部：「人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）」

「人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ）」

平成29年度に外国語学部外国語学科2、3年次に在学する正規学生（科目等履修生、特別聴講学生を除く）

人間科学部：「人間科学（共生の生態）」

法 学 部：「法学・政治学」

経 済 学 部：「経済学・経営学」

平成29年度に外国語学部外国語学科2年次に在学する正規学生（科目等履修生、特別聴講学生を除く）

外国語学部：「英語・英米文化学」

平成29年度に文学部、人間科学部、法学部、経済学部の2、3年次に在学する正規学生（科目等履修生、特別聴講学生を除く。）

◆大学院プログラム

本プログラムの「学部プログラム」を修了した大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く）。詳細は、プログラムごとに定められます。

(2) 履修条件

大阪大学の文学部、人間科学部、外国語学部、法学部又は経済学部の課程に正規学生として在学していることが必要です。その他、プログラムごとに履修条件や履修者数の制限を設けている場合がありますので、個々のプログラムの説明を参照してください。

なお、本プログラムにおいては、複数のプログラムを同時に履修することはできませんので、プログラムの履修申請に際しては、学部プログラム又は大学院プログラムのうちから一つのプログラムを選択して履修申請手続を行ってください。

(3) 費用

プログラムを履修することに対しては特別な費用はかかりません。ただし、プログラムの科目によっては、授業を受ける際に交通費などの実費がかかることがあります。

3 各プログラムのカリキュラム内容について

プログラムのカリキュラムの成り立ちや修了の方法について解説します。

(1) プログラムのカリキュラムについて

各プログラムのカリキュラムは、プログラム実施部局及び連携部局※2が企画し、プログラム科目や修了要件単位数を決めています。原則、プログラム科目は、プログラム実施部局や連携部局等で開講する授業科目から構成されています。本冊子ではプログラムの概要と構成科目を紹介していますが、科目の内容についてはホームページ（8頁の問い合わせ先参照）やKOANのシラバス等を参照してください。

(※2) プログラム実施部局とは、学部プログラム・大学院プログラムを企画し、開講するプログラムに対して責任を持つ学部・研究科等の組織をいい、連携部局とは複数の学部・研究科等の組織が連携して1つのプログラムを開講する場合の実施部局以外の部局をいいます。それぞれのプログラムの連携部局がどういった役割を担うかはプログラムによって違います。

(2) プログラムの修了要件の満たし方について

◆学部プログラムの修了要件の満たし方（本冊子の補足事項9頁を参照）

修了要件はプログラムごとに違い、本冊子には、プログラムの修了に必要な最低単位数を記載していますが、プログラムによっては必修科目を設けたり、コースを選択したりするなど、条件に違いがあります。詳細については、各プログラムの紹介ページ等で確認してください。

なお、プログラムの修了に必要な単位と所属している学部の学科の卒業に必要な単位との重複は認められます。当該プログラムの単位が、学科の卒業に必要な単位として認められるかどうかは、所属学部の教務担当係に確認してください。ただし、所属する学科の卒業に必要な最低修得単位数以外に、最低12単位を当該プログラムのための単位として修得する必要があります。

◆大学院プログラムの修了要件の満たし方（本冊子の補足事項11頁を参照）

修了要件はプログラムごとに違い、本冊子には、プログラムの修了に必要な最低単位数を記載していますが、プログラムによっては必修科目を設けたり、コースを選択したりするなど、条件に違いがあります。詳細については、各プログラムの紹介冊子等で確認してください。

プログラムの修了に必要な単位と、所属している研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます。当該プログラムの単位が、専攻の修了に必要な単位として認められるかどうかは、所属する研究科の教務担当係に確認してください。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、最低7単位を当該プログラムのための単位として修得する必要があります。

なお、他の大学院副専攻プログラムと本大学院プログラムを履修する場合、各プログラムの修了に必要な単位の重複は認めます。

(3) プログラムの授業科目の開講期間について

プログラムの提供する授業科目の開講は、プログラムを履修している当該学生の課程の標準修業年限内は保証されますが、それ以降はカリキュラムの変更等の理由で開講されない場合がありますのでご注意ください。

4 プログラムの履修申請等に関する手続について

プログラムの履修申請、プログラム科目の履修について解説します。

(1) プログラムの履修開始時の手続について

◆学部プログラム

履修申請について

1つのプログラムを選択し、平成29年1月4日(水)～2月1日(水)の申請期間中に、「学部プログラム履修申請書」を開設学部提出する必要があります。併せて開設学部の定める以下の期限までに、これまでの本学での成績証明書を開設学部提出する必要があります。

成績証明書の提出期限：文 学 部：平成29年3月8日(水)
人間科学部：平成29年3月7日(火)
外国語学部：平成29年3月8日(水)
法 学 部：平成29年3月8日(水)
経 済 学 部：平成29年3月6日(月)

履修申請手続については、KOANの掲示板またはホームページ（8頁の問い合わせ先参照）にてお知らせします。

選考について

開設学部の定める方法により履修生を選考し、3月末ごろ開設学部から履修生を発表します（選考方法については18頁～36頁の各プログラム紹介参照）。

科目履修登録について

選考を経て履修生となった学生は、学期ごとに開設学部の定めるルールに従って、科目履修申請書あるいはKOANにより、所定の履修登録期間内に、科目履修登録をします。科目履修登録の方法や登録期間については、KOANの掲示板またはホームページ（8頁の問い合わせ先参照）にてお知らせします。

◆大学院プログラム

プログラムを履修するには、「プログラムの申請」と「プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）」の両方を行う必要があります^{※3}。

（※3）例えば、本冊子2頁目の【図1】で、人間科学研究科の学生が大学院プログラム「言語文化学（専攻語）」の内容を学びたいと考えたとします。プログラムの履修を開始するには、①「言語文化学（専攻語）」が定める申請手続を行い、②KOANで「言語文化学（専攻語）」構成科目の履修登録を行う必要があります。

プログラムの申請は、プログラムごとに申請書を提出して行う必要があります。申請手続については、KOANの掲示板又はホームページ（8頁の問い合わせ先参照）にてお知らせします。

プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）は、各プログラムを開設している学部の教務係の指示に従って、学期ごとにKOANなどで当該学期に履修する授業科目について、所属する研究科及び授業科目開設部局で設定している履修登録期間内に行ってください。

その他、プログラムによっては、KOANの履修登録以外に年度当初又は学期毎に、履修するプログラム科目の申請が必要な場合もあります。各プログラムの指示に従ってください。

（2）プログラム及びプログラム科目に関わる通知について

プログラムは、実施部局あるいは連携部局により運営されていますので、それぞれから通知があることがあります。一方、プログラム科目は、いずれかの部局で開講されている科目ですので、原則、開講部局より通知があります。

これらのプログラムに関する通知や、プログラム科目の授業運営に関する通知（休講、課題等）の連絡は、原則、KOANの広報システム（掲示板等）により行います。ただし、プログラムによってはメールやホームページを使用する場合がありますので、各プログラムの指示に従ってください。

（3）プログラムの修了について

◆学部プログラム

学部プログラムの修了に必要な条件を全て満たすと、所属学部の課程を卒業するときに学部プログラムの修了認定証を授与します。修了認定証の交付は、所属する学部の教務担当係より行われます。

◆大学院プログラム

大学院プログラムの修了に必要な条件を全て満たすと、所属研究科の課程を修了するときに大学院プログラムの修了認定証を授与します。修了認定証の交付は、所属する研究科の教務担当係より行われます。

◆マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（全課程）

本プログラムの学部プログラムと大学院プログラムの両プログラムを修了した者には、所属研究科の課程を修了するときに、大学院プログラム修了認定証に加えてマルチリンガル・エキスパート養成プログラム（全課程）の修了認定証を授与します。修了認定証の交付は、所属する研究科の教務担当係より行われます。

（4）プログラムの内容に関する問い合わせ先

言語文化研究科・外国語学部箕面事務室

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（MLE） 担当

〒562-8558 箕面市粟生間谷東 8-1-1

Email: multilingual@lang.osaka-u.ac.jp TEL: 072-730-5062

ホームページ URL: <http://www.mle.osaka-u.ac.jp/>



5 補足事項

各解説事項を補足します。

(1) 単位修得方法の注意点

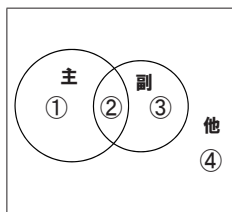
◆学部プログラム

「学部プログラム」は、所属学部・学科以外の内容や所属学科の専門性を生かすための関連分野を学ぶプログラムです。よって、プログラムの要件単位数を満たしても、所属学部・学科の卒業要件単位と重複する（内数として利用される）単位のみでは同プログラムを修了したと認定されず、【制度上の最低修得単位数の半数以上】は、当該プログラムのための単位として修得する必要があります。すなわち、【12単位以上】は、学部・学科の卒業要件ではない単位、あるいは卒業要件単位となる科目で卒業のために利用する単位数以上の余分に追加された単位である必要があります。

なお、プログラム科目が所属学部・学科以外の構成科目でも、同学部が規定する申請を行うことにより、卒業要件単位に算入することができる場合がありますが、当該科目を卒業要件の内数として利用する場合は、それ以外に単位の上乗せが必要となる場合があることに注意が必要です。

図解例

修得した単位を下記の区分①～④に分けた場合、



- ①…学部の卒業要件科目の単位
- ②…学部の卒業要件科目かつ学部プログラム科目の単位
- ③…学部プログラム科目の単位
- ④…学部の卒業要件【外】科目かつ学部プログラム【外】科目の単位

所属学部の卒業要件単位数を「(A) 単位」とすると、以下の3つの条件をすべて満たすことが必要です。

- **条件1**：学部プログラムの修了要件単位を満たすこと。
- **条件2**：『①+②+③≥(A)+12』を満たすこと。
(例. 学部プログラムを申請し、(A)=126の場合、「138単位以上」)
学部プログラム科目の単位と、所属している学部の卒業要件単位との重複は認められるが、学部の卒業に必要な最低修得単位数以外に**最低12単位は、学部の卒業要件ではない当該学部プログラムの単位を修得することが必要。**
- **条件3**：所属学部を卒業すること。

実際の履修例 (外国語学部生の例)^{※4}

所属学部の卒業要件単位 () が126単位であり、
申請した「学部プログラム」の修了要件単位数 () が24単位の場合

ケース1

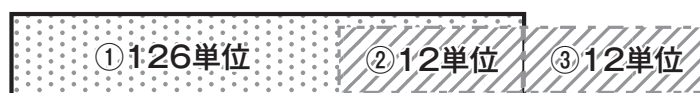
学部卒業要件の単位をプログラム修了要件とは別に修得している場合



→学部を卒業し、プログラムも修了可能である。
なお、③24単位は、学部の卒業要件となる科目でも可。

ケース2

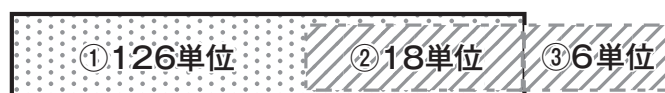
学部卒業要件とプログラム修了要件で、12単位が重複する場合



→学部を卒業し、プログラムも修了可能である。
なお、③12単位は、学部の卒業要件となる科目でも可。

ケース3

学部卒業要件とプログラム修了要件で、18単位が重複する場合



→学部を卒業できるが、プログラムは修了不可である。
この場合、上図の状態からさらに③6単位を追加することが必要。
同単位は学部の卒業要件となる科目でも可。ただし、18単位の内訳については学生便覧で確認すること。

ケース4

学部卒業要件とプログラム修了要件で、24単位が重複する場合



→学部・プログラムともに卒業・修了不可である。

(※4) ここで紹介する履修例は、外国語学部のものであります。文学部、人間科学部、法学部、経済学部については、17頁のQ&Aを参照の上、各学部に確認してください。

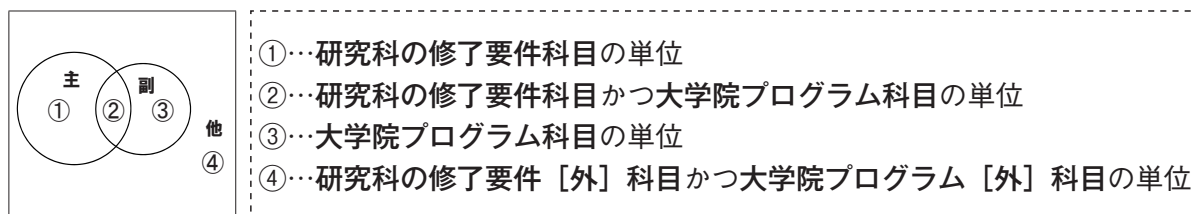
◆大学院プログラム

「大学院プログラム」は、所属研究科・専攻以外の内容や主専攻の専門性を生かすための関連分野を学ぶプログラムです。よって、プログラムの要件単位数を満たしても、所属研究科・専攻の修了要件単位と重複する（内数として利用される）単位のみでは同プログラムを修了したと認定されず、【制度上の最低修得単位数の半数以上】は、当該プログラムのための単位として修得する必要があります。すなわち、【7単位以上】は、研究科・専攻の修了要件ではない単位、あるいは修了要件単位となる科目で、修了のために利用する単位数以上の余分に追加された単位である必要があります。

なお、プログラム科目が所属研究科・専攻以外の構成科目でも、同研究科が規定する申請を行うことにより、修了要件単位に算入することができる場合がありますが、当該科目を修了要件の内数として利用する場合は、それ以外に単位の上乗せが必要となる場合があることに注意が必要です。

図解例

修得した単位を下記の区分①～④に分けた場合、



研究科の修了要件単位数を「(A) 単位」とすると、以下の3つの条件をすべて満たすことが必要です。

- 条件 1 : 大学院プログラムの修了要件単位を満たすこと。
- 条件 2 : 『①+②+③ \geq (A)+7』を満たすこと。
(例. 大学院プログラムを申請し、博士前期課程で (A)=30の場合、「37単位以上」)
大学院プログラム科目の単位と、所属している研究科の修了要件単位との重複は認められるが、研究科の修了に必要な最低修得単位数以外に最低7単位は、研究科の修了要件ではない当該大学院プログラムの単位を修得することが必要。
- 条件 3 : 大学院を修了すること。

(2) プログラム履修申請前の修得単位の扱いについて

プログラムで定める授業科目をプログラムの申請以前に履修している場合は、既に修得している単位がプログラムの修了要件単位として認定されることがあります。詳細については各プログラム実施部局にお問い合わせください。

6 Q & A

履修希望者および実際の履修生よりいただいた質問とその回答を紹介します。

募集・申請

Q：募集人員の「若干名」とは、何名程度の想定ですか？

A：募集人員「若干名」の人数想定としては、1～10名程度を想定しており、各プログラムへの応募者数や応募者の成績等を基に、プログラムごとに決定されます。

Q：なぜ、募集人員を若干名に限るのですか？

A：学部プログラムについては、文学部、人間科学部、外国語学部、法学部、経済学部の専門教育科目の授業を他学部の学生が履修するという形で開講するものであるため、教室の定員や授業効果等の観点から、各プログラムとも募集人員を「若干名」に限ることとしています。

Q：現在開設されているプログラムの採用者数は何名ですか？

A：以下のとおりです。

平成27年度（合計32名）

「人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）」 9名

「人間科学（共生の生態）」 9名

「法学・政治学」 8名

「経済学・経営学」 6名

平成28年度（合計31名）

「人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）」 3名

「人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ）」 7名

「人間科学（共生の生態）」 10名

「法学・政治学」 7名

「経済学・経営学」 4名

Q：海外渡航などで期限までに成績証明書を取得できない場合はどうすればよいですか？

A：所属学部の教務係に申し出てください。正当な理由と認められれば、代理で成績証明書を取得し該当学部に提出します。

Q：今年度不採用の場合、来年度に応募することは可能ですか？

A：2年次を募集対象としてるプログラムは、2年次しか応募できません。3年次を募集対象としているプログラムでは3年次の応募は可能です。しかしながら対象となる年次が変更される可能性がありますので、応募の際にはこの点を必ず確認してください。

履修者の選考

Q：履修者の選考方法や選考基準は、具体的にはどのようなものですか？

A：各プログラムの履修者は、次の方法で選考されます。

〈人文学〉

履修申請書（志望理由）および成績等の審査の結果を総合して選考します。希望者多数の場合は、面接を課すこともあります。

〈人間科学〉

履修申請書（志望理由）および成績等の審査の結果を総合して選考します。

〈英語・英米文化学〉

履修申請書（志望理由）および成績等の審査の結果を総合して選考します。必要に応じて面接を課すこともあります。

〈法学・政治学〉

履修希望者多数の場合は、入学以降の成績（GPA）の上位者から順に履修の許可を与えます。

〈経済学・経営学〉

履修申請書（志望理由）および成績等の審査の結果を総合して選考します。希望者多数の場合は、面接を課すこともあります。

Q：学部プログラムを履修するには、どの程度の GPA が必要ですか？

A：各プログラムとも GPA の基準は設けられていません。

Q：成績の審査が GPA により行われる場合、修得単位数は考慮されますか？

A：成績について、「法学・政治学プログラム」においては、入学以降の成績の GPA により審査が行われますが、その他のプログラムにおいては、成績の内容について総合的な審査が行われます。

なお、GPA は以下の計算式により算出されます（小数点第 3 位以下切り捨て）。

(((各学期に評価を受けた各授業科目で得た GP × 当該授業科目の単位数) の合計) の総和)

÷

((各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計) の総和)

Q：法学部でだけ、なぜ、GPA のみの判断で選考がなされるのですか？

A：選考方法は各プログラムの開講学部が決めることになっています。法学部としては GPA が選考の基準としてはもっとも客観的であるという理由から、GPA による選考をおこなうことにしました。なお、応募者および採用者の平均 GPA 等の公開はしていません。

カリキュラム・授業

Q：プログラム科目の時間割はいつ発表されるのですか？

A：各プログラムの科目の時間割の発表予定時期は次のとおりです。

〈人文学〉

平成29年3月初旬に KOAN 上で公表予定です。

〈人間科学〉

平成29年2月初めごろに人間科学部ホームページに掲載します。なお、その後に一部変更される場合もあります。

〈英語・英米文化学〉

平成29年3月下旬です。

〈法学・政治学〉

平成29年3月下旬です。

〈経済学・経営学〉

平成29年1月末に経済学部のサイトに公表します。

Q：経済学・経営学プログラムに置いては、数学的知識はかなり必要ですか？（理系出身ではないので不安があります。） また、マーケティングの授業があるようですが、講義形態の授業だけでなく、ワークショップのような参加型の授業、また実際に商品開発、マーケティングに取り組むことはありますか？

A：数学の知識は必要ですが、その程度は、授業によって異なります。数学A, 数学Bで使われている教科書も参照してください。（石村園子『やさしく学べる微分積分』（共立出版）（数学A）、藤田岳彦・石井昌宏『穴埋め式 線形代数 らくらくワークブック』（講談社）（数学B）、など）。またマーケティングは、学部の授業では、講義形態となります。

Q：経済学・経営学プログラムについて、1年生時に「経済学A」および「経済学B」を履修していなくても、応募は可能ですか？

A：応募は可能です。ただし、「経済学A」および「経済学B」を修得することは、本プログラムの前提となっていますので、2年次に修得することが望まれます。

Q：人間科学（共生の生態）プログラムでは、数学の知識は必要ですか？

A：特に必要ありません。

Q：箕面キャンパスで遠隔受講することができる授業科目は何科目くらいありますか？

A：平成27年度および平成28年度には、次に挙げる遠隔配信授業が開講されました。

【平成27年度の遠隔配信授業】

〈人文学〉

「世界の中のアジア史」（1、2学期、木曜3限）

〈人間科学〉

「超域地域論Ⅱ」（2学期、水曜2限）

「国際協力学Ⅱ」（2学期、水曜3限）

〈法学・政治学〉

「民法2」（2学期、火曜3限・水曜3限）

〈経済学・経営学〉

「経営計算システム」（1学期、月曜4限・水曜2限）

「経済史」（2学期、水曜1限・金曜4限）

「ミクロ経済」（2学期、水曜2限・金曜2限）

【平成28年度の遠隔配信授業】

〈人文学〉

「世界の中のアジア史「ヨーロッパの歴史Ⅲ」（1、2学期、木曜3限）

〈人間科学〉

「動態地域論Ⅰ」（1学期、水曜5限）

「動態地域論Ⅱ」（1学期、月曜2限）

「比較思想史」（2学期、火曜4限）

「国際協力学Ⅱ」（2学期、水曜3限）

〈法学・政治学〉

「商法2」（1学期、月曜4限・木曜1限）

「経済法」（1学期、水曜2限）

「外交政策論」（1学期、金曜3限）

「行政法3」（2学期、火曜3限）

「国際私法」（2学期、火曜4限）

〈経済学・経営学〉

「経営計算システム」（1学期、月曜4限・水曜2限）

※平成29年度に外国語学部から「英語・英米文化学」の科目を遠隔配信するかどうかについては未定です。

履修・修了要件

Q：大阪大学在学中に1年間留学したいと考えていますが、MLEの履修（申請）は可能ですか？また、修了することも可能ですか？

A：今後、外国の大学に留学を予定している学生であっても、本プログラムの履修（申請）は可能です。（ただし、2年次の第1学期からの留学を考えている場合は、プログラムの履修申請時に担当係に相談してください。）

外国の大学に留学中は、大阪大学の授業科目（プログラム科目を含む）を履修（単位修得）することはできませんが、卒業までの間に履修プログラムの修了要件を満たすことができれば、「学部プログラムの修了」ということになります。

例えば、大阪大学を休学しないで1年間留学し、在学4年間での（学部の）卒業を考えている場合は、2年次から4年次までの間のうち大阪大学に「在学」する2年間で、履修プログラムの修了要件を満たすことができれば、学部プログラムを修了することができます。なお、大阪大学を「休学」して留学する場合は、2年次以降、大阪大学に「在学」する3年（以上の）間で、履修プログラムの修了要件を満たすことができれば、学部プログラムを修了することができます。

Q：プログラム科目の単位を落とした場合、学部プログラムの履修資格を失うなどのペナルティはありますか？

A：学部プログラムの履修が認められた学生については、基本的に同一学部在学中は学部プログラムの履修資格を失うことはありません。

なお、卒業時までには学部プログラムの修了要件を満たすことができなかった場合は、修了認定証の交付を受けることはできません。

Q：学部プログラムの履修生として決定された後に、（例えば、プログラムの履修の途中で）プログラムの履修をやめることは可能ですか？

A：現時点においては、学部プログラムの履修中止手続等については、特に考えていませんが、プログラム履修中のいずれかの学期以降において、プログラム科目の履修登録手続等が行われなかった場合は、結果として、プログラムの履修を中止した状態になります。

Q：授業科目にⅠやⅡ、1や2がついているものは、Ⅰや1から履修した方がよいですか？

A：〈人文学〉

ⅠやⅡなどのローマ数字は講義内容の相違を示しており、履修すべき順を表しているわけではありません。

〈人間科学〉

特にシラバスで断りがない限りは、Ⅱや2を先に履修することも、またⅡや2だけを履修することもできます。

〈英語・英米文化学〉

ⅠやⅡなどのローマ数字は講義内容の相違を示しており、履修すべき順を表しているわけではありません。

〈法学・政治学〉

授業科目ごとに異なりますので、各自シラバスで確認してください。

〈経済学・経営学〉

基本的に履修の順番は問いませんが、シラバス等により、「1」→「2」の順に履修することが望ましいとされている授業もあります。

成績・単位

Q：MLEで履修した授業科目の成績は、GPAに加算されるのですか？

A：基本的にGPAの算入に含めます。

GPAの算出の対象となる授業科目については、「大阪大学におけるグレード・ポイント・アベレージ制度に関する要項」において、共通教育系科目、専門教育系科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目のうち、大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって、『各学部において卒業要件に算入することができる授業科目』とすると定められています。

Q：留学先大学で修得した授業科目の単位をプログラム科目の単位として認定してもらうことは可能ですか？

A：答えは「不可」です。

大阪大学学部学則第10条の3では、「他の大学等における授業科目の履修」に関して、学部が教育上有益と認めるときは、学生が外国の大学の授業科目を履修して修得した単位を（所属学部の）卒業に要する単位に算入できると規定されています。

学生が留学先大学で修得した授業科目の単位（以下「留学単位」といいます。）は、所属学部の卒業要件単位（所属学部の専門教育科目の単位）としては認定することは可能なのですが、他学部の専門教育科目の単位として認定することはできません。

MLEのプログラム科目は、授業を開設する学部（つまり、他学部）の専門教育科目となるため、留学単位は、MLEの修了要件単位として認定することはできません。

Q：プログラム科目として修得した授業科目の単位を教職課程の単位とすることは可能ですか？

A：当該プログラム科目の単位が、所属学部（例えば、外国語学部）において取得することが可能な教育職員免許状に係る「教科に関する科目」等の単位として有効な場合については、教職課程の単位とすることは可能です。ただし、所属学部以外（他学部）で修得した単位となるため、教職課程の単位とする場合については、所属学部の教務係に相談するようにしてください。

Q：現在、「日本法の諸問題（Topics in Japanese Law）」を履修していますが、法学・政治学プログラムの「特別講義（Topics in Japanese Law）」の単位として認定されますか？

A：ご質問の「日本法の諸問題（Topics in Japanese Law）」は、国際交流科目として開講されているものです。したがって、法学・政治学プログラムの「特別講義（Topics in Japanese Law）」の単位としては認定しません。

なお、同様に、国際交流科目の「比較法の諸問題（Topics in Comparative Law）」についても、法学・政治学プログラムの「特別講義（Topics in Comparative Law）」の単位としては認定しません。

Q：制度上の最低修得単位の半数以上、すなわち12単位以上は、学部・学科の卒業要件ではない単位、あるいは卒業要件単位となる科目で卒業のために利用する単位数以上の余分に追加された単位である必要があるということですが、仮に余分に修得した単位を卒業要件単位に組み込みたい場合、何単位をどの科目に組み込めるのでしょうか？

A：「所属学部以外の専門教育科目の単位」の取扱いについては、学部ごとに細かく決められていますので、ここで詳細にわたって説明できませんが、以下を参考に、詳細についてはそれぞれの所属学部にお問い合わせください。

※参考

〈文学部〉

24単位まで選択科目として認められることがある。

ただし、詳細は文学部「学生便覧」を参照すること。

〈人間科学部〉

10単位を限度として自由選択科目の単位として算入することができる。

ただし、詳細は人間科学部「学生便覧」を参照すること。

〈外国語学部〉

18単位を超えない範囲で選択科目として算入することができる。

ただし、詳細は外国語学部「学生便覧」を参照すること。

〈法学部〉

24単位を限度として選択科目として算入することができる。

ただし、詳細は法学部「学生ハンドブック」を参照すること。

〈経済学部〉

12単位を限度として卒業に要する単位数に算入できる。

ただし、詳細は経済学部「学生便覧」を参照すること。

履修のメリット

Q：MLEの修了は、就職等において有利にはたりますか？

A：本プログラムは、複数の学部及び複数の研究科の教育プログラムを修め、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的として開設するものですので、例えば、MLEの学部プログラムを修了すると、卒業の際に、学士の学位記に加えて、大阪大学総長と学部プログラムの開設学部長の連名による学部プログラムの修了認定証が交付されるため、就職エントリーシート等に記載する資格の一つとして、学位等に加えて、「大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラム（〇〇〇学）修了」と記載することができ、自己PRの材料になり得ると考えます。

平成29年度 各プログラム（学部プログラム）紹介

文学部【人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）】

プログラム名	和文	人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）
	英文	Humanities (Global Asian Studies)
開設学部	学部名	文学部
募集対象者	平成28年度に外国語学部外国語学科の2・3年次に在学する正規学生	
修了要件	24単位以上	本学部プログラム科目を所定の履修方法に従って24単位以上修得すること。ただし、所属学部の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。
趣旨・概要	マルチリンガル・エキスパート養成プログラムは、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。本プログラムは、そのうち学部学生向けプログラムとして実施するもので、プログラムに登録した外国語学部外国語学科の学生に対して、人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）に関するプログラムを提供する。	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	アジアを対象として、思想、歴史、文学、芸術などの人文学の基礎知識、理論、方法論を学び、幅広い人文学的教養と高い専門性を備えたグローバル人材としての能力を涵養する。	
カリキュラムの構成	中国、台湾、韓国、インド、東南アジア諸国などはそれぞれ独自の文化と歴史を持っているが、グローバル化が進む現在において、近隣諸国や日本、欧米との関係性において理解することが必要となっている。各国の政治・経済活動、宗教、生活様式、価値観やモノの見方は歴史的に形成されてきたものであり、様々な文化的事象の歴史的研究は不可欠であるが、さらにはひとつの国や地域を越えて地球規模の相互関連性の中に位置付けることによってダイナミックな形成過程を明らかにできる。外国語学部で専門的に学ぶ言語、及びその言語が使用されている国・地域の枠を超えて、アジアを世界的なコンテキストの中で理解する視点を涵養する。そのためにアジアにおいても共通のコミュニケーション・ツールとして機能している英語の運用能力の習得は欠かせない。本プログラムには英語による授業を組み入れる予定である。	
履修資格・条件	募集人員は若干名で、履修申請書（志望理由）及び成績等の審査の結果を総合して選考し、履修者を決定する。希望者多数の場合は、面接を課すこともある。	
前提知識の目安	アジアを対象とした思想、歴史、文学、芸術などの人文学について、学部一年生程度の基礎知識を有していること。	
問合せ先	文学部教務係 TEL：06-6850-5085/5084 FAX：06-6850-5087 Email：bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp	
特記事項	【履修申請】本学部プログラムの履修を希望する者は、文学部教務係へ、平成29年2月1日(水)までに「学部プログラム履修申請書」を提出した上で、平成29年3月8日(水)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。	

●構成科目（人文学（グローバル・アジア・スタディーズ））

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
グローバルフィロソフィー	2			春～夏	2、3、4年	左記の「必修科目」2科目4単位を修得すること。 同一科目の重複履修可（担当教員に確認すること。） 4単位を超えて修得した場合は、超過した単位を「選択必修科目」の単位とすることができる。
世界の中のアジア史	2			春～夏 秋～冬	3、4年	
グローバル・アジア研究Ⅰ		2		春～夏	3、4年	左記の「選択必修科目」のうち20単位以上修得すること。 同一科目の重複履修可（担当教員に確認すること。）
グローバル・アジア研究Ⅱ		2		秋～冬	2、3、4年	
グローバル・アジア研究Ⅲ		2		不開講	2、3、4年	
広域アジア史Ⅰ		2		春～夏	3、4年	
広域アジア史Ⅱ		2		秋～冬	3、4年	
広域アジア史Ⅲ		2		春～夏	3、4年	
広域アジア史Ⅳ		2		秋～冬	2、3、4年	
広域アジア史Ⅴ		2		秋～冬	2、3、4年	
アジアの思想史Ⅰ		2		春～夏	2、3、4年	
アジアの思想史Ⅱ		2		秋～冬	2、3、4年	
アジアの思想史Ⅲ		4		通年	2、3、4年	
アジアの思想史Ⅳ		2		秋～冬	2、3、4年	
アジアの芸術史		2		秋～冬	2、3、4年	
アジアの文化と社会Ⅰ		2		春～夏	2、3、4年	
アジアの文化と社会Ⅱ		2		秋～冬	2、3、4年	
中国語圏文学Ⅰ		2		春～夏	2、3、4年	
中国語圏文学Ⅱ		2		春～夏	2、3、4年	
中国語圏文学Ⅲ		2		秋～冬	2、3、4年	
中国語圏文学Ⅳ		2		春～夏	2、3、4年	
中国語圏文学Ⅴ		2		秋～冬	2、3、4年	
中国の文化と社会Ⅰ		2		不開講	2、3、4年	
中国の文化と社会Ⅱ		2		春～夏	3、4年	
中国の文化と社会Ⅲ		2		秋～冬	3、4年	

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。

文学部【人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ）】

プログラム名	和文	人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ）
	英文	Humanities (Global Euro Studies)
開設学部	学部名	文学部
募集対象者	平成29年度に外国語学部外国語学科の2・3年次に在学する正規学生	
修了要件	24単位以上	ただし、外国語学科の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。
趣旨・概要	<p>「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」は、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。</p> <p>本プログラムは、そのうち学部学生向けプログラムとして実施するもので、プログラムに登録した外国語学部外国語学科の学生に対して、人文学に関するプログラムを提供する。</p> <p>グローバル化が進展する今日において、ひとつの国や地域に関する専門的知識をもちながら、それを含む広い領域に関する複数の学問分野について学ぶことは、ますます重要な課題となっている。本プログラムでは、ヨーロッパの古代から現代までのあらゆる時代に関わる思想、歴史、文学、芸術などの人文学の基礎知識、理論、方法論を学び、幅広い人文学的教養と高度な専門性を備えたグローバル人材を育成することを教育目標とする。</p>	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	<p>本プログラムでの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与する。</p> <p>①ヨーロッパの文化・歴史・思想全般の基礎知識を習得している。 ②ヨーロッパの文化・歴史・思想を研究するための方法を習得している。 ③ヨーロッパの文化・歴史・思想の個別主題について専門的な知識を習得している。 ④ヨーロッパ諸言語の高度な運用能力を習得している。</p> <p>*構成科目の備考欄①～④と対応している。</p>	
カリキュラムの構成	<p>上記の到達目標（修了時に身につけるべき能力）を達成するために、以下の科目群を配置し、系統的履修を促す。</p> <p>ヨーロッパ思想とヨーロッパ芸術に関する概説講義を必修科目とし（①）、「ヨーロッパの哲学」「ヨーロッパの歴史」「ヨーロッパの文学」「ヨーロッパの芸術」ならびに「ヨーロッパの現代」という5つの科目群を選択必修科目と位置づける。これにより、履修者の関心に応じて、ひとつの学問分野において地域横断的な知見を得る（②）とともに、ひとつの国や地域に関する分野横断的な知識の習得（③）が可能となる。さらには、ヨーロッパをアジア（と日本）との関係のなかに位置づける科目も配し、世界全体から見たヨーロッパの特殊性への意識をも涵養する。また、英・独・仏語の文献講読授業や、ネイティブ教員による英・独・仏語の授業も組み込み、高度な外国語運用能力の習得を促す（④）。</p>	

履修資格・条件	ヨーロッパの歴史と現代、ならびにヨーロッパの哲学・歴史・文学・芸術に関心があり、それらの領域に関わる専門研究に従事する意欲を持つ学生を歓迎する。 募集人員は若干名で、履修申請書（志望理由）及び成績等の審査の結果を総合して選考し、履修者を決定する。希望者多数の場合は、面接を課すこともある。
前提知識の目安	英語に加えて、ドイツ語、フランス語、イタリア語などのヨーロッパ諸言語の少なくとも一言語に関する基礎的な文法事項を修得していることが望ましい。
問合せ先	文学部教務係 TEL：06-6850-5085/5084 FAX：06-6850-5087 Email：bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp
特記事項	【履修申請】本学部プログラムの履修を希望する者は、文学部教務係へ、平成29年2月1日(水)までに「学部プログラム履修申請書」を提出した上で、平成29年3月8日(水)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。

●構成科目（人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ））

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
グローバル・ユーロ思想史	2			春～夏	2、3、4年	左記の「必修科目」2科目4単位を修得すること。 同一科目の重複履修可（担当教員に確認すること）。 4単位を超えて修得した場合は、超過した単位を「選択必修科目」の単位とすることができる。 ①
グローバル・ユーロ芸術史	2			春～夏		
ヨーロッパの哲学Ⅰ		2		春～夏	2、3、4年	左記の「選択必修科目」のうちから、20単位以上修得すること。 同一科目の重複履修可（担当教員に確認すること）。 ②③④
ヨーロッパの哲学Ⅱ		2		不開講		
ヨーロッパの哲学Ⅲ		2		秋～冬		
ヨーロッパの哲学Ⅳ		2		春～夏		
ヨーロッパの哲学Ⅴ		2		秋～冬		
ヨーロッパの哲学Ⅵ		2		不開講		
ヨーロッパの歴史Ⅰ		2		春～夏	3、4年	
ヨーロッパの歴史Ⅰ		2		秋～冬	2、3、4年	
ヨーロッパの歴史Ⅱ		2		秋～冬	3、4年	
ヨーロッパの歴史Ⅲ		2		春～夏	2、3、4年	
ヨーロッパの歴史Ⅲ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅰ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅰ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅱ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅲ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅳ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅴ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅵ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅶ		2		不開講		
ヨーロッパの文学Ⅷ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅷ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅸ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅸ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅹ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅹ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅺ		2		春～夏		
ヨーロッパの文学Ⅺ		2		秋～冬		
ヨーロッパの文学Ⅻ		2		春～夏		
ヨーロッパの芸術Ⅰ		2		春～夏		
ヨーロッパの芸術Ⅱ		2		春～夏		
ヨーロッパの芸術Ⅲ		2		秋～冬		
ヨーロッパの芸術Ⅳ		2		春～夏		
ヨーロッパの芸術Ⅳ		2		秋～冬		
ヨーロッパの現代Ⅰ		2		春～夏		
ヨーロッパの現代Ⅱ		4		不開講		
ヨーロッパの現代Ⅲ		2		春～夏		
ヨーロッパの現代Ⅳ		2		秋～冬		

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。

人間科学部【人間科学（共生の生態）】

プログラム名	和文	人間科学（共生の生態）
	英文	HUMAN SCIENCES (WHAT IS LIVING TOGETHER?)
開設学部	学部名	人間科学部
募集対象者	平成29年度に外国語学部外国語学科の2年次に在学する正規学生	
修了要件	24単位以上	本学部プログラム科目を所定の履修方法に従って24単位以上修得すること。ただし、外国語学部の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。
趣旨・概要	<p>「マルチリンガルエキスパート養成プログラム」は、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。本プログラムは、そのうちの学部学生向けプログラムとして実施するもので、プログラムに登録した外国語学部外国語学科の学生に対して、人間科学（共生の生態）に関する専門教育科目で構成されたプログラムを提供する。多様な文化的・社会的背景をもった人々が、国内外で出会う状況が生まれている今日、災害や紛争といった状況下ではもちろん、日常生活においても共生が求められてる。本プログラムでは人間科学部の多様な専門性を活かして、さまざまな角度から共生について学ぶことを通じ、共生の実現に貢献できる人材を養成することを目標とする。</p>	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	<p>本プログラムでの学習を通して、以下の能力を得た方に修了認定証を授与する。</p> <p>①複眼的な思考を持ち、人々の多様性を理解できる。 ②人々と対話し関係を築き協働することについて、自分の意見を持ち、論じることができる。 ③共生に関して学んだことを応用できる。</p>	
カリキュラムの構成	<p>上記の到達目標を達成するために6つの科目群を配置し、共生について多面的な履修を促す。共生そのものをテーマとしてとり上げる授業と、共生に関連するテーマを扱う授業がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目群 人間科学部で学ぶための基礎的な科目群 ・行動学科目群 心理学、行動学、死生学などに関わる科目群 ・社会学科目群 社会学、文化人類学、福祉、思想などに関わる科目群 ・教育学科目群 教育学の理論と教育現場に関わる科目群 ・共生学科目群 共生そのものを考える科目群 ・G30科目群 英語による科目群 	
履修資格・条件	募集人員は若干名で、履修申請書（志望理由）及び成績審査の結果を総合して選考し、履修者を決定する。	
前提知識の目安	前提知識は不要。	
問合せ先	<p>人間科学部教務係 TEL：06-6879-8012 FAX：06-6879-8010 Email：kyomu@hus.osaka-u.ac.jp</p>	
特記事項	<p>【履修申請】本学部プログラムの履修を希望する者は、人間科学部教務係へ、平成29年2月1日(水)までに「学部プログラム履修申請書」を提出した上で、平成29年3月7日(火)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。</p>	

●構成科目（人間科学（共生の生態））

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
〈基礎科目〉						
人間科学概論		2		春～夏	2年次春学期以降	左記の授業科目のうちから、2科目4単位以上修得すること。
行動学概論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
社会学概論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
教育学概論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
共生学概論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
〈行動学科目〉					2年次秋学期以降	
臨床死生学・老年行動学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	左記の授業科目のうちから、2科目4単位以上修得すること。
高齢者行動論		2		春～夏	2年次秋学期以降	
人間環境論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
生活環境論*		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
発達臨床心理学		2		春～夏	2年次秋学期以降	
比較発達心理学 【H29年度不開講】		2		春～夏	2年次秋学期以降	
霊長類心理学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
〈社会学科目〉						
比較思想史		2		秋～冬	2年次秋学期以降	左記の授業科目のうちから、2科目4単位以上修得すること。
グローバル化と文化		2		春～夏	2年次秋学期以降	
人類学理論		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
比較社会学		2		春～夏	2年次秋学期以降	
現代社会学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
比較福祉論Ⅰ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
文明動態学		2		春～夏	2年次秋学期以降	
〈教育学科目〉						
外国教育史		2		春～夏(集中)	2年次秋学期以降	左記の授業科目のうちから、2科目4単位以上修得すること。
比較教育制度学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
生涯教育学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
共生教育学		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
人権教育論		2		春～夏	2年次秋学期以降	
〈共生学科目〉						
共生の人間学Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	左記の授業科目のうちから、3科目6単位以上修得すること。
共生の人間学Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
共生社会論Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
共生社会論Ⅱ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
共生社会論Ⅲ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
共生行動論Ⅰ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
共生行動論Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
共生教育論Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
共生教育論Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
国際協力学Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
国際協力学Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
多文化共生学Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
多文化共生学Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
地域創生論Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
地域創生論Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
コンフリクトと共生Ⅰ*		2		春～夏	2年次秋学期以降	
コンフリクトと共生Ⅱ		2		秋～冬	2年次秋学期以降	
〈G30科目〉						左記の授業科目のうちから、1科目2単位以上修得すること。
セクシャリティーと教育 (英名:Sexuality and Education)		2		秋～冬	3年次春学期以降	
ジェンダーと教育 【H29年度不開講】 (英名:Gender and Education)		2		秋～冬	3年次春学期以降	
アジア人類学概論 (英名:Issues in Asian Anthropology)		2		秋～冬	3年次春学期以降	
防災と国際協力 (英名:Disaster Prevention and International Cooperation)		2		春～夏	3年次春学期以降	
世界の貧困と開発 (英名:Global Poverty and Development)		2		春～夏	3年次春学期以降	
高齢者心理学 (英名:Psychology of Aging)		2		秋～冬	3年次春学期以降	

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。
 ※*の科目は平成30年度より開講。

外国語学部【英語・英米文化学】

プログラム名	和文	英語・英米文化学
	英文	English and Anglo-American Culture
開設学部	学部名	外国語学部
募集対象者	平成29年度に文学部、人間科学部、法学部、経済学部の2, 3年次に在学する正規学生	
修了要件	24単位以上	本学部プログラム科目を所定の履修方法に従って24単位以上修得すること。ただし、所属学部の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。またプログラム修了時の1月末までに、TOEFL (PAPER) 580点以上ないし別に定める(別表)外部検定試験のスコアを提出すること。
趣旨・概要	マルチリンガル・エキスパート養成プログラムは、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。本プログラムは、そのうちの学部学生向けプログラムとして実施するもので、プログラムに登録した文学部・人間科学部・法学部・経済学部の学生に対して、英語・英米文化学に関する専門教育科目で構成されたプログラムを提供する。これにより、読み、書き、聞き、話す国際的な場面で通用する総合的な高い英語能力を涵養するとともに、英語圏の言語、政治、経済、社会、歴史、思想に通暁した人材を育成することを目指す。	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	本プログラムでの学修を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与する。 ①英語の四技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)に関して、別表にある所定の外部検定試験スコア相当の高い運用能力を有する。 ②英語圏の言語、政治、経済、社会、歴史、思想を深く理解するとともに、英語で関連テーマについて高度なレベルのプレゼンテーションやディスカッションを行うことができる。	
カリキュラムの構成	本プログラムは、外国語学部が開講する授業科目の内、兼修外国語英語の中級科目(1単位の実習)、上級科目(2単位の演習)および学部共通科目の英語科目(2単位の演習)によって構成される。	
履修資格・条件	各自の専門分野のみならず、英語を修得して将来国際舞台で活躍することに意欲を持つ学生を歓迎する。募集人員は各学部若干名で、履修申請書(志望理由)および成績などの審査の結果を総合して選考し、履修者を決定する。応募者には必要に応じて面接を課すことがある。プログラム構成科目の履修の際には、別表を参照し、所定のいずれかの外部検定試験のそれぞれの科目の基準を満たすスコアの写し(画像)を期限までに提出する必要がある。有効取得日、提出期限に注意のうえ、遺漏のないよう手続きをすること。なお、プログラムの履修申請にあたっては、特定の外部検定試験のスコア提出は不要とする。本プログラムへの登録が認められながらも科目履修において必要とされるスコアの提出が困難な者については、別途設置された準備コース(課外補習クラス)を受講することにより、プログラム履修開始年度の第2学期以降の科目履修を目指すことができるものとする。	

前提知識の目安	
問合せ先	マルチリンガル・エキスパート養成プログラム：担当者 TEL：072-730-5062 FAX：072-730-5057 Email：multilingual@lang.osaka-u.ac.jp
特記事項	【履修申請】 本学部プログラムの履修を希望する者は、MLE 担当者へ、平成28年2月1日(水)までに、「学部プログラム履修申請書」を提出した上で、平成29年3月8日(水)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。

●構成科目（英語・英米文化学）

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
英語（語学）a			1	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語（語学）b			1	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語（文学）a			1	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語（文学）b			1	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語（文化）a			1	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英語（文化）b			1	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英語(コミュニケーション)a			1	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語(コミュニケーション)b			1	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語学Ⅰa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語学Ⅰb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語学Ⅱa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語学Ⅱb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英文学Ⅰa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英文学Ⅰb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英文学Ⅱa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英文学Ⅱb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英米文化Ⅰa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅰb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅱa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅱb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅲa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅲb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅳa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅳb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅴa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅴb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅵa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英米文化Ⅵb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定【注】
英語会話Ⅰa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語会話Ⅰb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語会話Ⅱa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語会話Ⅱb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語作文Ⅰa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語作文Ⅰb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語作文Ⅱa			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
英語作文Ⅱb			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面／豊中開講予定
Academic Presentation Course a			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面開講
Academic Presentation Course b			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面開講
Academic Writing Course a			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面開講

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
Academic Writing Course b			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面開講
World English Seminar a			2	春～夏	2、3、4年	①② 箕面開講
World English Seminar b			2	秋～冬	2、3、4年	①② 箕面開講

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。
 ※構成科目の履修において必要とされるスコアの提出が困難な場合は、課外補習クラスとして開講される「英語・英米文化学準備コース」を受講することにより、プログラム履修開始年度の第2学期以降の科目履修を目指すことができます。

【注】「英語（文化）」および「英米文化」の各科目では、英語圏の言語、政治、経済、社会、歴史、思想に関連した内容が扱われます。

別表：英語・英米文化学プログラム・2017年度検定試験スコアの提出について

「英語・英米文化学構成科目」の履修については、所定の検定試験のいずれかを受検し、基準を満たすスコアの写し（画像）を期限までに提出する必要があるあります。有効取得日、提出期限に注意のうえ、遺漏のないよう手続きしてください。

履修・修得科目	各種要件等		有効取得日	提出期限
	2017年度1学期履修登録要件	2017年度2学期履修登録要件		
・英語（語学・文学・文化・コミュニケーション）a	2017年度1学期履修登録要件		入学以後に取得したもの	4月の履修申請時にメール添付 最終期限：2017年4月14日(金)
・英語（語学・文学・文化・コミュニケーション）b	2017年度2学期履修登録要件	2017年度2学期単位修得要件	入学以後に取得したもの 入学以後で、なおかつ2016年4月1日以降	10月の履修申請時にメール添付 最終期限：2017年10月16日(月)
・（英語学・英文学・英語会話・英語作文）I a ・（英語学・英文学・英語会話・英語作文）II a ・英米文化（I、II、III、IV、V、VI）a		2017年度1学期履修登録要件	入学以後に取得したもの	4月の履修申請時にメール添付 最終期限：2017年4月14日(金)
・（英語学・英文学・英語会話・英語作文）I b ・（英語学・英文学・英語会話・英語作文）II b ・英米文化（I、II、III、IV、V、VI）b		2017年度2学期履修登録要件	入学以後に取得したもの	10月の履修申請時にメール添付 最終期限：2017年10月16日(月)
・Academic Writing Course a/b ・Academic Presentation Course a/b ・World English Seminar a/b		2017年度2学期単位修得の目安	入学以後で、なおかつ2016年4月1日以降	単位修得年度の1月末日 最終期限：2018年1月31日(水)
プログラム修了要件		2017年度1学期履修登録要件 2017年度2学期履修登録要件	入学以後に取得したもの 入学以後に取得したもの	4月の履修申請時にメール添付 最終期限：2017年4月14日(金)
試験種類	実用英語技能検定	準1級以上	入学以後、プログラム修了年度の前年度または当該年度に取得したもの	プログラム修了年度の1月末日
	TOEIC (L&R)	準1級以上 580点以上		※基準を満たす有効取得日内のスコアを過去に提出済みの場合は、再度の提出は不要です。 ※実用英語技能検定は更新制ではないため、入学以後に取得したものであれば特に有効期限を定めません。
	TOEFL (PAPER)	500点以上 61点以上		※学内で実施される団体試験（TOEIC-IP、TOEFL-ITP）のスコアも有効とします。 ※「(英語学・英文学・英米文化・英語会話・英語作文) I b・II b」の単位修得要件中に提示した点数はあくまで目安（単位修得に必要な点数、目標とすべき点数）であり、基準点（必要条件）ではありませんが、提出されたスコアを参考にしただうえで成績評価がなされます。
	TOEFL (iBT)	520点以上 68点以上		
	IELTS	5.0以上 5.5以上 6.0以上 6.5以上		

【提出方法】

〈履修申請時〉

科目履修申請時にスコアを証明する箇所（検定試験の種類、受験年月日、氏名、スコアが印字されている部分）の画像を、メールに添付して履修科目とともに送付してください
（送付先アドレス〈マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（MLE）〉：multilingual@lang.osaka-u.ac.jp、詳細はホームページ〈http://www.mle.osaka-u.ac.jp/〉を確認してください）。

〈単位修得時およびプログラム修了時〉

KOAN、MLEのホームページまたは下記提出場所配布している「TOEIC (L&R)、TOEFL、英検、IELTS スコアシート提出票（MLE用）」にスコアを証明する箇所（検定試験の種類、受験年月日、氏名、スコアが印字されている部分）の写しを貼り付けのうえ

算面キャンパス：A棟1階教務系事務室 MLE担当者

豊中キャンパス：全学教育推進機構総合棟Ⅱ 1階外国語学部学務係豊中分室窓口（豊中分室は共通教育科目の授業期間内のみ開室しています）

に提出してください。

法学部【法学・政治学】

プログラム名	和文	法学・政治学
	英文	Law and Politics
開設学部	学部名	法学部
募集対象者	平成29年度に外国語学部外国語学科の2年次に在学する正規学生	
修了要件	24単位以上	本学部プログラム科目を所定の履修方法に従って、24単位以上修得すること。ただし、外国語学科の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。
趣旨・概要	「マルチリンガルエキスパート養成プログラム」は、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	本プログラムでの学修を通して、以下の能力を備えた学生に修了認定証を授与する。 ①法学・政治学について理解している。 ②法学・政治学について自分の意見を持ち、論じることができる。 ③法学・政治学を応用できる。	
カリキュラムの構成	本プログラムでは、24単位以上の修得によって法学・政治学の中心部分を学ぶことができる。履修者には外国語による法学の学習機会も提供する。学習に必要なスキルを学ぶため、〈法律学系の基本科目〉、〈国際法系科目〉、〈政治学系基本科目〉、〈外国語による授業科目〉などの選択必修科目（10単位以上）が設定され、修得した能力をさらに発展させるため、〈法律学系〉、〈政治学系〉などの選択科目が設定されている。選択必修要件以外の14単位（以上）は、選択必修科目、選択科目を問わず、科目表中のどの科目の履修によっても満たすことができる。ただし、〈国際法系科目〉と〈外国語による授業科目〉だけで24単位以上をとっても修了要件を満たすことにはならない。	
履修資格・条件	現代世界の喫緊の課題に取り組みグローバルに活躍する上で不可欠な、法学・政治学の専門的な知識の中核となる部分を獲得し、法学・政治学の領域にかかわる外国語能力を高めるようという意欲のある学生を歓迎する。 募集人員は、若干名。履修希望者多数の場合は、入学以降の成績（GPA）の上位者から順に履修の許可を与える。	
前提知識の目安	法学・政治学に関する大学初等レベルの知識を持っていることが望ましい。	
問合せ先	法学部教務係 TEL：06-6850-5145 FAX：06-6850-5089 Email：houkyoumu@law.osaka-u.ac.jp	
特記事項	【履修申請】本学部プログラムの履修を希望する者は、法学部教務係へ、平成29年2月1日(水)までに「学部プログラム履修申請書」を提出した上で、平成29年3月8日(水)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。	

●構成科目（法学・政治学）

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考	
	必修	選必	選択				
〈法学系基本科目〉							
法 学 の 基 礎		2		春～夏	1年次以降	左記の選択必修科目のうちから、10単位以上修得すること。	
憲 法 入 門		2		秋～冬	1年次以降		
憲 法 1		4		春～夏	2年次以降		
憲 法 2		4		秋～冬	2年次以降		
行 政 法 1		2		春～夏	2年次以降		
行 政 法 2		2		秋～冬	2年次以降		
民 法 入 門		2		秋～冬	1年次以降		
民 法 1		4		春～夏	2年次以降		
民 法 2		4		秋～冬	2年次以降		
民 法 3		4		春～夏	3年次以降		
〈国際法系〉							
国 際 法 1		2		春～夏	2年次以降		
国 際 法 2		2		秋～冬	2年次以降		
国 際 法 3		2		春～夏	3年次以降		
国 際 経 済 法		2		春～夏	3年次以降		
国 際 取 引 法		2		秋～冬	3年次以降		
中 国 法		4		秋～冬	3年次以降		
〈政治学系基本科目〉							
政 治 学 の 基 礎		2		春～夏	1年次以降		
国 際 関 係 論 入 門		2		秋～冬	1年次以降		
政 治 学 原 論		4		秋～冬	2年次以降		
西 洋 政 治 思 想 史		4		春～夏	3年次以降		
日 本 政 治 史		4		春～夏	2年次以降		
ア ジ ア 政 治 史		4		秋～冬	3年次以降		
〈外国語による授業科目〉							
特別講義 (Topics in Comparative Law)		2		春～夏	3年次以降		
特別講義 (Topics in Japanese Law)		2		春～夏	3年次以降		
特別講義 (Topics in Comparative Law)		2		秋～冬	3年次以降		
特別講義 (Topics in Japanese Law)		2		秋～冬	3年次以降		
Special Lecture: Focal Points of Public Law and Private Law in Japan		2		不開講	3年次以降		
〈法学系〉							
行 政 法 3			2	春～夏	3年次以降		
行 政 法 4			2	春～夏	3年次以降		
刑 法 1			4	春～夏	2年次以降		
刑 法 2			4	秋～冬	2年次以降		
刑 事 訴 訟 法			4	秋～冬	3年次以降		
民 法 4			2	秋～冬	3年次以降		
商 法 1			2	秋～冬	2年次以降		

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
商 法	2		4	春～夏	3年次以降	
商 法	3		2	春～夏	3年次以降	
民 事 訴 訟 法	1		2	春～夏	3年次以降	
民 事 訴 訟 法	2		2	秋～冬	3年次以降	
経 済 法			2	春～夏	3年次以降	
労 働 法			4	秋～冬	3年次以降	
社 会 保 障 法			2	春～夏	3年次以降	
国 際 私 法			2	秋～冬	3年次以降	
国 際 環 境 法			2	秋～冬	3年次以降	
国 際 人 権 法			2	春～夏	3年次以降	
特 別 講 義			2	-	3年次以降	
ヨ ー ロ ッ パ 法			2	不開講	3年次以降	
日 本 の 法 制 度			2	春～夏	1年次以降 (留学生対象・大学院同時開講)	
〈政治学系〉						
政 治 過 程 論			4	春～夏	3年次以降	
日 本 政 治 思 想 史			4	(不開講)	3年次以降	
西 洋 政 治 史			4	秋～冬	3年次以降	
国 際 政 治 学			4	春～夏	3年次以降	
外 交 史			4	不開講	3年次以降	
行 政 学			4	春～夏	3年次以降	
地 方 行 政 論			2	秋～冬	3年次以降	
比 較 政 治 学			4	秋～冬	3年次以降	
外 交 政 策 論			2	春～夏	3年次以降	
安 全 保 障 政 策 論			2	春～夏	3年次以降	
平 和 学			2	春～夏	3年次以降	
現 代 ヨ ー ロ ッ パ 政 治 学			2	春～夏	3年次以降	
国 際 行 動 論			2	春～夏	3年次以降	
国 際 機 構 論			2	春～夏	3年次以降	

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。

※開講科目は平成28年度の実績に基づく開講予定で、変更される可能性があります。

経済学部【経済学・経営学】

プログラム名	和文	経済学・経営学
	英文	Economics and Business Administration
開設学部	学部名	経済学部
募集対象者	平成29年度に外国語学部外国語学科の2年次に在籍する正規学生	
修了要件	24単位以上	本学部プログラム科目を所定の履修方法に従って24単位以上修得すること。ただし、外国語学部の卒業に必要な最低修得単位数以外に、本プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。
趣旨・概要	「マルチリンガルエキスパート養成プログラム」は、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする部局横断型教育プログラムである。本プログラムは、そのうちの学部学生向けプログラムとして実施するもので、プログラムに登録した外国語学部外国語学科の学生に対して、経済学・経営学に関するプログラムを提供する。	
到達目標 (修了時に身に付く能力)	本プログラムでの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与する。 ①経済学・経営学の基礎について理解している。 ②経済学・経営学の理論を現実の経済・経営問題に応用できる。 ③現実の経済・経営問題について自分の意見を持ち、論じることができる。	
カリキュラムの構成	上記の到達目標（修了時に身につけるべき能力）を達成するために、全学共通教育科目・専門基礎教育科目の「経済学A」および「経済学B」の単位を修得することを前提として、専門教育科目から24単位以上を修得することを要件とする。その際には、経済学部の正規学生と同様に、基礎的な科目群（「マクロ経済」「ミクロ経済」「経済史」「経営計算システム」「統計」）から3科目12単位を修得することを必修とする（選択必修科目）。これにより、経済学・経営学の基本的な考え方を身に付ける。加えて、その他の関連科目（選択科目）から12単位、合計24単位以上を履修することで、応用力も涵養することを目標とする。	
履修資格・条件	募集人員は若干名とする。履修申請書（志望理由）及び成績等の審査の結果を総合して選考し、履修者を決定する。応募者多数の場合は、面接を課すこともある。選考面接の日時等については、別途連絡する。	
前提知識の目安	全学共通教育科目・専門基礎科目教育の「経済学A」および「経済学B」の知識を前提とする。また、全学共通教育科目・専門基礎教育科目の「数学A」および「数学B」を履修していることが望ましい。	
問合せ先	経済学部教務係 TEL：06-6850-5204 FAX：06-6850-5212 Email：kyoumu@econ.osaka-u.ac.jp	
特記事項	【履修申請】本学部プログラムの履修を希望する者は、経済学部教務係へ、平成28年2月1日(水)までに「学部プログラム履修申請書」を提出した上、平成29年3月6日(月)までに平成28年度第2学期までの大阪大学の成績証明書を提出すること。「学部プログラム履修申請書」の用紙は、KOANの掲示板およびMLEのホームページから入手できる。	

●構成科目（経済学・経営学）

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
〈選択必修科目〉						
マ ク ロ 経 済		4		春～夏	2年次春学期以降	左記の授業科目のうちから、3科目12単位以上修得すること。
ミ ク ロ 経 済		4		秋～冬	1年次秋学期以降	
経 済 史		4		秋～冬	1年次秋学期以降	
経 営 計 算 シ ス テ ム		4		春～夏	2年次春学期以降	
統 計		4		春～夏	2年次春学期以降	
〈選択科目〉						
財 政			4	春～夏	2年次秋学期以降	
金 融			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
国 際 貿 易			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
国 際 金 融			4	春～夏	2年次秋学期以降	
労 働 経 済			4	春～夏	2年次秋学期以降	
応 用 ミ ク ロ 経 済			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
現 代 日 本 経 済			4	春～夏	2年次秋学期以降	
経 済 発 展			4	秋～冬	2年次秋学期以降	
公 共 経 済			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
エ コ ノ メ ト リ ッ ク ス			4	秋～冬	2年次秋学期以降	
日 本 経 済 史			4	秋～冬	2年次秋学期以降	
西 洋 経 済 史			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
経 営 管 理			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
組 織 論			2	春～夏	2年次秋学期以降	
財 務 会 計 1			2	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
財 務 会 計 2			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
フ ァ イ ナ ン ス			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
マ ー ケ テ ィ ン グ 1			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
マ ー ケ テ ィ ン グ 2			2	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
経 営 科 学 基 礎			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
応 用 経 営 科 学			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
生 産 マ ネ ジ メ ン ト 基 礎			2	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
現 代 生 産 マ ネ ジ メ ン ト			2	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
デ ー タ マ イ ニ ン グ			2	春～夏	2年次秋学期以降	
テ キ ス ト マ イ ニ ン グ			2	秋～冬	2年次秋学期以降	
経 営 情 報 シ ス テ ム			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
経 営 史			4	H29年度は不開講	2年次秋学期以降	
日 本 経 営 史			4	春～夏	2年次秋学期以降	
各 論			2又は4	春～夏または秋～冬	2年次秋学期以降	
経 済 思 想			2	H29年度は不開講	3年次春学期以降	
経 済 学 説 史			4	秋～冬	3年次春学期以降	
公 共 政 策			2	H29年度は不開講	3年次春学期以降	

授業科目名	単位数			開講学期 (4学期制)	配当学年	備考
	必修	選必	選択			
数 理 経 済			2	H29年度は不開講	3年次春学期以降	
事 業 創 造 論			2	春～夏	3年次春学期以降	
戦 略 論			2	春～夏	3年次春学期以降	
管 理 会 計			4	秋～冬	3年次春学期以降	
企 業 経 済 学 1			2	春～夏	3年次春学期以降	
企 業 経 済 学 2			2	春～夏	3年次春学期以降	
経営シミュレーション			2	未定	3年次春学期以降	
上 級 マ ク ロ 経 済 Ⅰ			2	春～夏	3年次春学期以降	
上 級 マ ク ロ 経 済 Ⅱ			2	秋～冬	3年次春学期以降	
上 級 ミ ク ロ 経 済 Ⅰ			2	春～夏	3年次春学期以降	
上 級 ミ ク ロ 経 済 Ⅱ			2	秋～冬	3年次春学期以降	
上級エコノメトリックスⅠ			2	春～夏	3年次春学期以降	
上級エコノメトリックスⅡ			2	秋～冬	3年次春学期以降	
上 級 統 計			2	春～夏	3年次春学期以降	
デ ー タ 解 析 論			2	春～夏	3年次春学期以降	
商 法 1			2	秋～冬	3年次春学期以降	
経 済 法			2	春～夏	3年次春学期以降	
特 殊 講 義			2又は4	春～夏または秋～冬	3年次春学期以降	
研 究 セ ミ ナ ー (ゼミ)			4	春～冬	3年次春学期以降	

※原則として学生は上位学年に配当されている科目を履修できませんので、構成科目に留意してください。

※選択必修1以外の開講学期については、変更される場合があります。

※「各論」及び「特殊講義」は、各年度において、副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。

大学院プログラムの概要

平成30年度開設予定の大学院プログラム一覧

(各学部プログラム名は平成29年度の開設予定に基づく。)

	プログラム名称 【すべて仮称】	プログラム 実施部局	履修対象者【予定】 ※学部プログラム修了生以外は、選考の上履修生を決定する。
①	人文学 (グローバル・アジア・スタディーズ)	文学研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「人文学(グローバル・アジア・スタディーズ)」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 ・文学部において学部プログラム「英語・英米文化学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化(言語社会専攻)、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。
②	人文学 (グローバル・ユーロ・スタディーズ)	文学研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「人文学(グローバル・ユーロ・スタディーズ)」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 ・文学部において学部プログラム「英語・英米文化学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化(言語社会専攻)、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。
③	人間科学 (共生の生態)	人間科学研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「人間科学(共生の生態)」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 ・人間科学部において学部プログラム「英語・英米文化学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化(言語社会専攻)、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。
④	法学・政治学	法学研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「法学・政治学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 ・法学部において学部プログラム「英語・英米文化学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化(言語社会専攻)、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。
⑤	経済学・経営学	経済学研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「経済学・経営学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 ・経済学部において学部プログラム「英語・英米文化学」を修了した言語文化研究科(言語社会専攻)の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化(言語社会専攻)、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。

	プログラム名称 【すべて仮称】	プログラム 実施部局	履修対象者【予定】 ※学部プログラム修了生以外は、選考の上履修生を決定する。
⑥	言語文化学 (24専攻言語)	言語文化研究科 (言語社会専攻)	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・外国語学部が提供する学部プログラムを修了した文系の研究科（言語文化研究科（言語社会専攻）を除く）の正規学生 ・外国語学部において学部プログラムを修了した文系の研究科（言語文化研究科（言語社会専攻）を除く）の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化（言語社会専攻）、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。
⑦	国際公共政策学	国際公共政策研究科	原則として、次に掲げる者に限る。 (1)・学部プログラム「法学・政治学」又は「経済学・経営学」を修了した言語文化研究科（言語社会専攻）の正規学生 ・法学部又は経済学部において外国語学部が提供する学部プログラムを修了した言語文化研究科（言語社会専攻）の正規学生 (2)上記(1)以外の者で、平成30年4月に、文学、人間科学、法学、経済学、言語文化（言語社会専攻）、国際公共政策研究科の博士前期課程に入学したもので特に希望する者。

① 人文学（グローバル・アジア・スタディーズ）【仮称】

学部プログラムにおいて修得した、アジアを対象とする人文学的知識や方法論を基礎としつつ、海外研修、インターンシップを実施することにより、いっそう高度な実践知と調査・研究能力を涵養する。ローカリズムとグローバリズムという二方向の知を併せ持つ高度専門職業人の育成をめざす。

② 人文学（グローバル・ユーロ・スタディーズ）【仮称】

学部プログラムにおいて修得した、ヨーロッパに関わる地域横断的かつ分野横断的な知見をもとに、履修者自身に関心をもつ主題に基づいて調査・研究を行い、その成果を明晰判明な論理に則って発表できるように導く。また、各人の研究対象に深く関わる外国語の高度な運用能力修得のためのカリキュラムを整備する。こうして、幅広い視野と専門的知識を背景に、複数の外国語を自在に操り、独自の問題意識から社会に向けて適切な提言ができる高度専門職業人を育成する。

③ 人間科学（共生の生態）【仮称】

本プログラムに登録した言語文化研究科の大学院生に、共生の生態に関する講義を提供します。人間科学研究科博士前期課程の各学系から提供される授業のうち、共生に関わりのある指定科目の中から7科目14単位以上を取得することで修了できます。

④ 法学・政治学【仮称】

法学研究科は「現代科学技術の社会的基礎を成す、法政に関わる賢慮（prudence）の追求」を、大学院教育の基本理念としています。マルチリンガル・エキスパート養成大学院プログラム（法学・政治学）では、学部プログラム（法学・政治学）あるいは法学部での履修内容と大

学院での研究計画をもとに、本プログラムの受講決定後に指定する担任教員のアドバイスを受けながら履修科目を決めていただきます。

⑤ **経済学・経営学【仮称】**

本プログラムに登録した言語文化研究科の大学院生に、経済学・経営学に関する講義を提供します。経済学研究科博士前期課程の各専攻から提供される講義科目の中から、7科目14単位以上を取得することで修了できます。

⑥ **言語文化学（24専攻言語）【仮称】**

言語文化研究科言語社会専攻が開設予定の「言語文化学（専攻語）」プログラムでは、外国語学部が提供する学部プログラムや外国語学部での専攻語教育を通じて学修してきた世界の24の言語について、当該言語の運用能力をさらに磨きながら、当該言語圏の言語の構造や歴史、小説や演劇などの文化表象、さらに言語圏の社会の構造や動態について教授します。また、より広い視点から世界の各地域についての文化を研究する科目や、複合的な文化領域にまたがる現象を研究する科目、さらにはわが国でもここでしか開講されていないような少数言語の研究をする科目などを通して、世界の言語と文化についての多様な最先端の教育を行います。

⑦ **国際公共政策学【仮称】**

大学院プログラム「国際公共政策学」は、国際公共政策研究科博士前期課程用に開講している授業科目のうち、「基礎科目」と位置づけられている授業科目を中心とする9科目から構成されている。本プログラムの教育目標は、①社会科学の主要な学問領域である法律学、政治学および経済学の三つの学問領域における、大学院レベルでの基礎的な知見や方法論を履修者が習得すること、②国際公共政策分野における政策提言へ向けた視点を履修者が獲得することである。

◆構成科目

以下に掲げる国際公共政策研究科博士前期課程科目9科目（単位数はすべて2単位）
「国際法」「国際公共政策のための法律学」「公共政策Ⅰ」「国際関係論」「応用エコノメトリックスⅠ」「現代ミクロ経済学Ⅰ」「現代マクロ経済学Ⅰ」「ディジションセオリー」「政策データ分析」

大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラムに関する申合せ

(趣 旨)

第1条 この申合せは、大阪大学（以下「本学」という。）の学生に対して、当該学生が所属する学科及び専攻の教育課程（カリキュラム）に加えて別途提供する大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（以下「マルチリンガルプログラム」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 マルチリンガルプログラムは、学部及び大学院博士前期課程（修士課程を含む。）を通じた部局横断型教育プログラムを構築することによって、複数の学部及び複数の研究科の教育プログラムを修め、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的とする。

(対象学生)

第3条 マルチリンガルプログラムは、本学の文学部、人間科学部、外国語学部、法学部及び経済学部並びに文学研究科、人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、言語文化研究科及び国際公共政策研究科に所属する学生に対して提供するものとする。

(構 成)

第4条 マルチリンガルプログラムは、学部における教育プログラム（以下「学部プログラム」という。）及び大学院における教育プログラム（以下「大学院プログラム」という。）で構成する。

2 学部プログラムは、大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラムとして開設し、その修了要件、提案、承認、修了認定証の発行及び管理運営については、別に定める。

3 大学院プログラムは、大阪大学大学院副専攻プログラムとして開設する。

(修了要件)

第5条 マルチリンガルプログラムの修了の要件は、学部プログラムを修了し、かつ、大学院において所属する専攻があらかじめ指定する大学院プログラムを修了することとする。

(修了認定証の発行)

第6条 学部プログラム及び大学院プログラムの提案部局又は幹事部局は、マルチリンガルプログラムを修了した学生に対して、所属専攻の修了後、速やかに学部プログラム及び大学院プログラムの提案部局又は幹事部局の長と総長との連名によるマルチリンガルプログラムの修了認定証を発行することができる。

附 則

この申合せは、平成27年4月1日から施行する。

大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラムに関する申合せ

(趣 旨)

第1条 この申合せは、大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラムに関する申合せ第4条第2項の規定に基づき、大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラム（以下「学部プログラム」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(構 成)

第2条 学部プログラムは、その教育目標に沿って、所属学科に準ずる一定のまとまりを有する科目により構成するものとする。

(修了要件)

第3条 学部プログラムの修了に必要な単位数は、24単位以上とし、学部プログラムごとに定めるものとする。

2 学部プログラムの修了に必要な単位と所属学科の卒業に必要な単位との重複を認めるものとする。ただし、所属学科の卒業に必要な最低修得単位数以外に、当該学部プログラムの単位を12単位以上修得しなければならない。

(提 案)

第4条 部局（文学部、人間科学部、外国語学部、法学部及び経済学部をいう。以下同じ。）は、単独で、又は複数の部局が連携して、学部プログラムを提案するものとする。

2 前項の場合において、複数の部局が連携して提案する場合は、幹事部局を定め、幹事部局から提案を行うものとする。

(承 認)

第5条 提案部局又は幹事部局は、学部プログラムの名称、内容等を全学教育推進機構に提案し、その承認を得るものとする。

(修了認定証の発行)

第6条 提案部局又は幹事部局は、学部プログラムを修了した学生に対して、所属学科の卒業後、速やかに提案部局又は幹事部局の長と総長との連名による学部プログラムの修了認定証を発行することができる。

(管理運営)

第7条 学部プログラムの実施に関する管理運営は、提案部局又は幹事部局で行うものとする。

附 則

この申合せは、平成27年4月1日から施行する。

各プログラムの詳細については、「各プログラム紹介」の各プログラムの問い合わせ先にご照会ください。

(全般的な問い合わせ先)

大阪大学 言語文化研究科・外国語学部箕面事務室
マルチリンガル・エキスパート養成プログラム (MLE) 担当

〒562-8558 箕面市粟生間谷東 8-1-1

Email : multilingual @ lang.osaka-u.ac.jp

TEL : 072-730-5062

ホームページ URL : <http://www.mle.osaka-u.ac.jp/>



